



あっさり黙示録

#4 『黒い馬に乗る者がもたらす世界的大飢饉』

黙示録 6章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は『あっさり黙示録』の4回目です。

聖書の終末預言によると、人類はやがて艱難時代と呼ばれる 苦難の7年間に突入すると言われています。本当に人類史上 未曾有の苦しみ時代ですが、現在このシリーズでは、艱難時代の前半3年半について、**黙示録**をひも解きながら解説しています。

黙示録は独特の表現形式を取っていて、“7つの封印によってロックされた巻物”のことを言うんですね。この巻物は、封印を一つずつ解いていくにしたがって中身がどんどんよく見えて来る。巻物の中身が黙示録 終末預言なんです。今日は3つ目の封印解除の記事です。

黙示録 6章 5-6節

子羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が「来なさい」と言うのを聞いた。

私は見た。すると見よ、黒い馬がいた。これに乗っている者は秤を手に持っていた。

私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の真ん中でこう言うのを聞いた。

「小麦一コイニクスが一デナリ。大麦三コイニクスが一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

一コイニクスは約1リットル。一デナリは大人の1日分の給料と言われています。仮に1万円としておきましょう。小麦1リットルが1万円、大麦3リットルが1万円する時代が来ると言うのですね。

今ずいぶん食料(糧)費が上がってますよね。悪い物価高の形になっています。

それでも日本では、小麦1リットルは300円しません。それが、1万円出しても手に入らないかもしれない。30倍以上の価格に跳ね上がるのです。

なぜこんなにも食糧が急騰するのか？ 前回お話したように、艱難時代の初期に大きな戦争が起こるから。戦争が起こると、食糧物資はすぐに戦略物資になってしまうんですね。

今世界には208の国があって、その中のいくつかは大食料輸出国です。

世界は、食糧を輸出して稼いでいる国と、食糧以外の物を輸出して稼ぎ、食糧は輸入に頼る国の2つに分かれています。208も国があれば、ある食糧輸出国、また輸入国と戦争しても、他の国と置き換えが利くわけですね。

しかし 特にこの時、世界は10か国しかありません。10か国の中で、食糧を輸出できる国はいくつかに限定されるでしょう。その場合、輸入している国は、輸出国と事を構えるということになると、大変な食糧難になると考えられるんですね。或いは、戦争のために耕作地がダメージを受け、食糧生産がガクッと落ち、食糧の費用が跳ね上がるということも考えられます。

いずれにしても、艱難時代の初めの戦争の結果、世界は深刻な食糧難の時代を迎えることになるという預言なのです。

しかし、6節にちょっと気になる言葉が書いてあるんですね。

オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。これはいったい何の意味なのでしょう。

オリーブ油とぶどう酒を一对の固まりとして紹介している箇所が、黙示録以外にもう一箇所、新約聖書に出て来ます。それはルカの福音書 10 章のイエスのたとえ話です。

あるユダヤ人が旅の途中で盗賊に襲われ、身ぐるみ剥がされて財産を持って行かれるだけでなく、半殺しに遭いました。彼は自力歩行ができなくて、伏したまま身動きできず、血だらけの状態で放置されている。放つといたら死にます。色んな人々が見るのですが、見て見ぬフリ。

ところが、サマリア人（ユダヤ人が軽蔑しているため、民族間に思わしくない感情がある）の旅人が、この傷だらけ血だらけの瀕死状態の旅人を見つけて、もしかしたらまだ近くに盗賊がいるかもしれないにもかかわらず、このようにしたのです。

### ルカの福音書 10 章 33-34 節

ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人のところに来ると、見てかわいそうに思った。そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。

このたとえの中で、オリーブ油とぶどう酒が一对の固まりとして紹介されていますが、それは食料品としてではなく、医薬品・医療品・傷を癒すための薬として用いられているんですね。黙示録で、一对の固まりとして語られているオリーブ油とぶどう酒は医薬品の役割だ、と解釈するのが良いと思います。

さて、地球的スケールの食糧難になるほどの大きな戦争ですが、神の許しの範囲内での戦争なんですね。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけないということは、医薬品・医療品が途絶えないように、神はそこまでの壊滅的ダメージを許さないという意味です。

大きな戦争がありますが、医薬品は恵みによって残されるのです。神はどのような中でも恵みを準備しておられる方ですね。神は人が耐えることのできない試練に遭わせることはありません。試練とともに脱出の道を備えてくださっています。

艱難時代という裁きの時代においてすら、神は恵みを残しておられる。準備しておられる。ならば、今この時代、艱難時代に突入していない恵みの時代においては尚更のことです。あなたに必要な恵みを神は準備し、その恵みに与ることができるように、日々あなたに働きかけておられる。それが恵み深い神なのだと言っているのですね。

どうぞ黙示録の終末預言を通して、神のご本質、恵みの神について知ってください。そしてぜひイエス・キリストにある救いに入ってくださいるように、心からお勧めします。

この話の続きは『ごうちゃんねる』の『あっさり黙示録シリーズ』でやって行きますので、またご覧ください。よろしければ、チャンネル登録もお願いします。ではまた お目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。